

令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 旭 中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語	150人	社会	150人	数学	151人
	理科	151人	英語	150人		

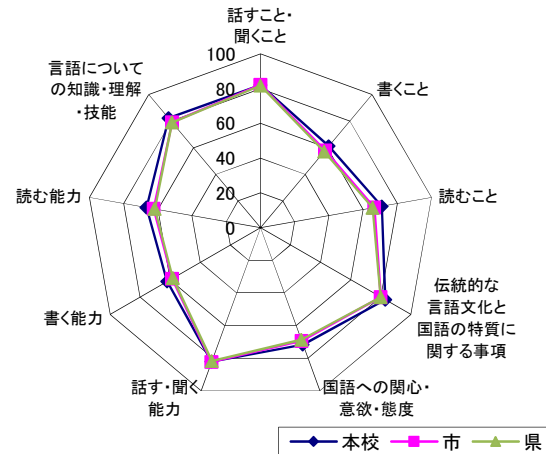
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立 旭 中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	82.1	82.3	81.8
	書くこと	61.3	58.0	57.2
	読むこと	70.9	66.6	65.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	83.0	80.0	79.9
観点	国語への関心・意欲・態度	71.7	69.4	68.8
	話す・聞く能力	82.1	82.3	81.8
	書く能力	62.0	58.8	58.1
	読む能力	66.6	62.5	61.7
	言語についての知識・理解・技能	82.2	79.2	79.1



★指導の工夫と改善

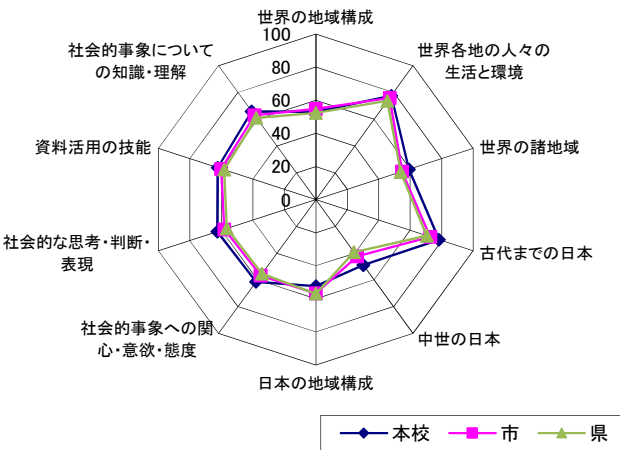
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○正答率は82%と高く、司会者の工夫を聞き取る問題では、88%と高い正答率である。 ●市や県より、わずかながら正答率が低い。特に、聞き手に理解してもらうための話し方の工夫や話の内容を正確に聞き取る問題の正答率が県より低い。	・聞き取りテストを今後も継続して行っていく。問題を見ながら解くことは慣れていても、文章すべてを聞き取ることがまだ慣れていないようなので、メモの取り方などのポイントを指導していく。 ・スピーチ等の授業を用いて、発表者の内容の理解だけでなく、話の構成を意識して聞けるようにし、話し方の工夫への理解を高めたい。
書くこと	○正答率は61.3%であり、市や県平均より3～4ポイント高い。すべての問題において、県平均よりも正答率が高い。 ●記述での正答率が低く、特に根拠を明確にしたり、自分の考えを明確にして書いたりする問題を苦手としている生徒が多い。無回答者も16.0～39.3%と多い。	・作文への苦手意識が高く、条件が多いと諦めてしまう生徒がいるので、条件のある作文に慣れさせたい。まずは短文など、簡単な課題から取り組んでいく。 ・自分の考えを明確にしたり、根拠を示したりすることができるようするために、事実を捉えることに慣れさせる。その上で、それがどうして良いのか、理由とつなげる練習を授業の中で何度もしていく。
読むこと	○正答率は70.9%で、市や県平均より4ポイントほど高い。また、すべての問題において、正答率が県平均より高い。 ●文章の構成や展開を捉える、登場人物の心情を捉える、登場人物の心情の変化を捉える問題が、正答率が7割を超えなかった。	・説明文では、段落どうしの関係に着目して、文章の構成を捉え、内容を読み取らせる。 ・文学作品では、登場人物の行動や描写から心情を丁寧に読み取ること、また、片方の人物のセリフだけで状況や心情をうのみにせず、最後まで読んで、人物の気持ちを読み取れることを、普段の授業で慣れさせたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○正答率は83.3%で、市や県平均より3ポイントほど高い。1年で学習した漢字の読み方の正答率は8割を超え、歴史的仮名遣いや故事成語の問題では9割を超えた。 ●「貸す」など小学校の漢字の正答率や、文節の関係の正答率が県より下回っている。	・漢字テストを継続して行い、漢字の定着を図る。特に小学校の漢字で間違いやすいものを問題に取り入れ、こまめに確認していく。 ・文節や単語などの文法は、折に触れ問題を出すなど、復習する機会を多く取り入れる。

宇都宮市立 旭 中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	世界の地域構成	53.1	54.7	52.3
	世界各地の人々の生活と環境	77.6	75.9	73.7
	世界の諸地域	59.2	54.8	53.9
	古代までの日本	78.3	72.7	70.5
	中世の日本	48.9	42.4	39.3
	日本の地域構成	52.3	56.7	56.9
観点	社会的事象への関心・意欲・態度	61.4	56.7	55.3
	社会的な思考・判断・表現	62.5	58.1	56.4
	資料活用・技能	62.4	60.1	58.2
	社会的事象についての知識・理解	65.8	62.9	61.1



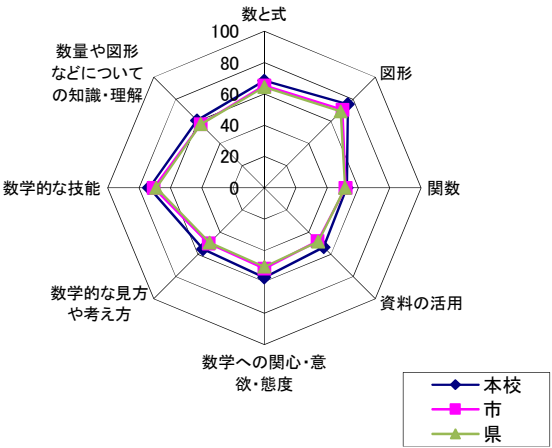
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の地域構成	○正答率は53.1%で、県平均より高い。世界の地域区分に関する問題は、正答率が78%と、特に高い。 ●方位を読み取るために適切な正距方位図法を選択する問題の正答率が30%で、特に低い。また、ヨーロッパ州の農業の特徴に関する問題の正答率が、県平均と比べて2.5ポイント低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・地図にはそれぞれ特徴があるので、例題を示しながら、面積の歪みや方位などを理解させる。 ・農業は気温や降水量など、自然条件と密接な関わりがあることに授業の様々な場面で触れることで、地理的思考力を育成し、なぜヨーロッパでは地中海式農業、混合農業、酪農と、地域によって異なる農業を行っているのかを理解できるようにしていく。
世界各地の人々の生活と環境	○正答率は77.6%で、市や県平均より高い。特に冷帯気候の人々の暮らしについて、複数の資料をもとに考察する問題は、県平均より13.3ポイント高い。 ●乾燥した地域におけるオアシスについての問題では、正答率が県平均より3ポイント低い。	・乾燥帯での人々の生活や農業の特徴を、気温や降水量から把握させ、乾燥帯におけるオアシスの重要性が理解できるようにしていく。またオアシスは重要語句であるため、オアシスに限らず、1年時の内容の重要語句の復習の時間を定期的に設け、知識の定着を図る。
世界の諸地域	○正答率は59.2%で、市や県平均より約5ポイント高い。アジア、ヨーロッパ、北アメリカ、オーストラリアなど、各州に関する問題が出されているが、すべての問題において、正答率が県平均より高い。 ●モノカルチャー経済に関する論述問題において、県平均より5.2ポイント高いものの、正答率は38.7%と低い。	・モノカルチャー経済に関しては、天候や国際情勢がどう変化すると問題になってしまうのかを具体的に考えさせ、説明できるようにしていく。 ・論述式の問題は他と比べ、正答率が低くなりがちで、また無回答の割合も高くなる傾向があるので、普段の授業の中でも資料から読み取ったことを文章でまとめさせる機会を設けるようにし、思考力・表現力を育成できるようにする。
古代までの日本	○正答率は78.3%で、市や県平均より6～8ポイント高い。すべての問題において、正答率が県平均より高く、特に、国風文化に関する問題では、県平均より14.4ポイント高い。 ●世紀の表し方に関する問題の正答率は66.7%で、県平均との差が最も小さかった。	・西暦を世紀で表す時には、数え方の間違いが生じやすい。時代の移り変わりの場面等で、世紀の数え方の確認をし、正しく理解させられるようにする。
中世の日本	○正答率は48.9%で、市や県平均より6～9ポイント高い。すべての問題において県平均より高く、特に、執権政治に関する問題は、県平均より19.2ポイント高い。 ●御恩と奉公に関する問題と、建武の新政に関する問題は、ともに正答率が県平均より高いが、正答率は約30%と低い。	・御恩と奉公という語句が、鎌倉時代において具体的にどんな内容をさしているのかを整理させ、それが中世における主従関係の基礎になっていることを理解できるようにする。 ・後醍醐天皇を中心とした権力争いの構図は複雑だが、武士や農民、公家がそれぞれどんな思いを抱いていたのかを考えさせ、具体的なイメージをもてるようにし、鎌倉時代から室町時代までの流れを捉えられるようにする。
日本の地域構成	○排他的経済水域に関する問題は、正答率が県平均をより高い。 ●正答率は52.3%で、市や県平均より約4ポイント低い。特に、日本の標準時子午線や日本の領域に関する問題の正答率が県平均より低い。	・日本の標準時子午線に関しては、地図も活用し、場所や都市の名称なども確認させ、理解させる。 ・日本の領域を巡る問題は、地図の活用やワークシートの工夫をすることで、竹島、尖閣諸島、北方領土それぞれの、問題を抱えている国や歴史的経緯の違いを整理し、理解できるようにする。

宇都宮市立 旭 中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	68.4	65.4	64.4
	図形	75.4	70.5	69.0
	関数	52.6	51.9	51.5
	資料の活用	53.6	48.1	48.6
観点	数学への関心・意欲・態度	57.2	51.5	50.4
	数学的な見方や考え方	55.3	50.2	49.4
	数学的な技能	73.5	70.6	68.9
	数量や図形などについての知識・理解	60.9	57.5	57.4



★指導の工夫と改善

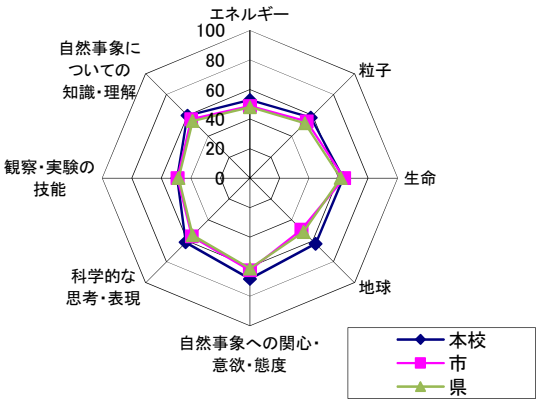
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○正答率は68.4%であり、市平均より3ポイント、県平均より4ポイント高い。特に、割合を使った文字式を表す問題の正答率が、県平均より9.7ポイント高い。 ●正負の数の乗法の問題の正答率が、県平均より1.8ポイント低い。1次方程式の問題の正答率が、県平均より1.5ポイント低い。	・基本的な計算問題は単元の中で確実に身に付くよう、復習の機会を与えたい。また、決められた時間の中で一定の問題数を解かせ、処理能力を高めたい。 ・前の学年の内容など、学習してから時間がたった問題についても定期的に復習の機会を設けたい。
図形	○正答率は75.4%であり、市平均より4.9ポイント、県平均より6.4ポイント高い。特に、回転移動に関する問題の正答率が、県平均より11.9ポイント高い。 ●おうぎ形の面積を求める問題の正答率が、59.6%とあまり高くない。	・図形については立体模型などの具体物を示すことで理解を促していきたい。 ・おうぎ形の面積は公式がどのようにでき、どのように使えば求められるかを身に付けさせていきたい。
関数	○正答率は52.6%であり、市平均より0.6ポイント、県平均より1.1ポイント高い。 ●関数の意味を問う問題の正答率が、県平均より3.1ポイント低い。比例の関係を表す式からグラフを書く問題の正答率が県平均より0.7ポイント低い。	・「関数」という語句はどの学年でも用いられるので、各学年の単元の導入時に、意味を確認させたり、関数関係にある2つの数量を見つけるなどの問題に取り組ませたりしたい。 ・2つの数量の関係を表すために「表」「式」「グラフ」の書き方を身に付けさせたい。また、それらの特徴と表す関係について関連させて身に付けさせたい。
資料の活用	○正答率は53.6%であり、市平均より5.5ポイント、県平均より5ポイント高い。特に、着目すべき値を選ぶ問題の正答率が、県平均より17ポイント高い。 ●累積度数を求める問題の正答率が、県平均より2.7ポイント低い。ヒストグラムの特徴から理由を説明する問題の正答率が38.4%と低い。	・代表値の意味とその求め方を確認し、計算技能を身に付けさせていきたい。 ・それぞれの代表値からどんなことがわかるか、説明させる問題を取り入れていきたい。

宇都宮市立 旭 中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	52.9	48.8	48.1
	粒子	58.1	54.4	52.6
	生命	63.2	63.7	61.5
	地球	62.8	49.4	51.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	68.2	62.3	61.1
	科学的な思考・表現	61.4	55.7	54.8
	観察・実験の技能	49.2	49.0	48.3
	自然事象についての知識・理解	59.8	56.3	54.8



★指導の工夫と改善

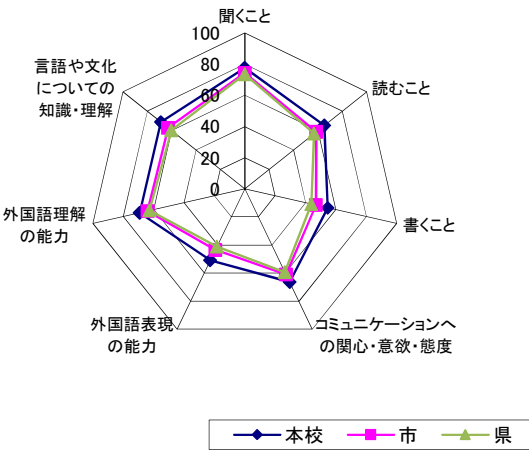
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○正答率は59.2%と市や県平均より4ポイントほど高い。本校において過去4年間、正答率が市や県平均より3～4ポイントほど高い。旭中学区には、エネルギー領域に興味関心を持つ生徒が多い。 ●「音の性質」における短答形式の問題の無回答の生徒が多数いた。	・「音の性質」における音を出す条件について考える力が身につけていない生徒も多いので、モノコードを用いた実験や身近な輪ゴムを用いた実験を通して、生徒に考えながら学ぶ機会を増やし理解させる。 ・重力の大きさとばねの伸びの大きさの関係を理解する力を身に付けるために、目的を明確にしたうえで実験を行う。
粒子	○正答率は58.1%と市や県より4～6ポイント高い。例年、市平均と同水準であるが、今年は4ポイントほど高い。COVID-19の影響で実験が制限されたものの、事象を協力して思考したり演習したりする時間を設けたことが影響したと考える。 ●「物質の状態変化」における沸騰を始めた時間のグラフの読み取りに課題がある。	・「物質の状態変化」における蒸留に関してワインや、身の回りの蒸留の例をもとに、アルコールとそれ以外の液体を分ける方法を考え、見通しをもって液体の混合物の分類に関する単元構成を行い、生徒に理解させる。
生命	○正答率は63.2%と県より2ポイントほど高い。特に「動物の分類」の両生類の呼吸の仕方についての正答率は県平均より6ポイント程高い。 ●正答率は63.2%と市よりも0.5%低い。全体的に身につけていないのは、COVID-19の影響で学習時間が十分に確保できたいなかったことが影響していると考えられる。	・この学年の生徒は休校期間中に、生命分野が十分に学習できなかったため、シダコケ植物や、裸子植物、被子植物などの特徴を表やフローチャートなどにまとめたり、再度演習の機会を設けたりするようにする。
地球	○正答率は62.8%と市や県平均より10%近く高く、特に、「地層」の堆積した環境を探る問題の正答率は、県平均より15%近く高い。 ●地層の特徴から、堆積した当時の海岸からの距離を推測する問題の正答率が、54.3%と県の平均よりも0.7%低く、思考力が伴っていないと考えられる。	・正答率が高いが、学力別層の差が大きい領域である。重要語句などを関連付けて理解できるよう、チャート図などを利用することで理解させる。

宇都宮市立 旭 中学校 第2学年【英語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	77.6	74.4	73.5
	読むこと	65.2	58.7	56.9
	書くこと	54.6	46.8	43.9
観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	66.4	61.0	59.4
	外国語表現の能力	51.0	43.5	41.1
	外国語理解の能力	69.2	64.0	62.8
	言語や文化についての知識・理解	68.8	62.9	60.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○正答率は77.6%で市平均より3.2ポイント、県平均より4.1ポイント高い。特に「内容理解のリスニング」では、県平均を大幅に上回っている。授業の中で教員も生徒も英語を使う機会を意識している成果と考えられる。 ●「絵を適切に表している英文を聞き取る問題」では、県正答率より0.3ポイント低い。絵を見て、状況を適切に判断することに課題が見られる。	・授業の中で、放送の問題を聞き取る機会を多くしたり、教師と生徒のインタラクションの機会を多くしたりする授業を行い、状況や内容を把握する聞き取り活動に取り組ませる。 ・ALTとの授業の中で、日本語の補助なしに聞き取れるように支援していくとともに、積極的に対話活動に取り組むことで聞く力を高める。
読むこと	○正答率は65.2%で、市平均より6.5ポイント、県平均より8.3ポイント高い。さまざまな英文を読み取る問題の正答率が高く、思考力や判断力に優れている。 ●内容別に正答率を見ると、全項目で県平均より高いが、「読み取った内容をふまえて、英文を完成させる問題」の正答率は低い。	・読む力を付けるためには、語彙力、文法力が必要である。基本文を定着させ、語彙を増やすために、単語・基本文の反復練習に取り組ませる。 ・読み取った内容をふまえて英文を完成させる力を付けるために、普段の授業から教科書の英文を読んで、英語で要約したり感想を書かせたりする活動を取り入れる。
書くこと	○正答率は54.6%で、市平均より7.8ポイント、県平均より10.7ポイント高い。授業で、ワークシートやノートを利用して書く活動を行っている効果が出ている。 ●内容別正答率を見ると、どの項目も県平均を上回っているが、「場面に応じて書く英作文の問題」の正答率が低い。	・場面に応じて質問文や答えが適切に書いたり、話したりできるようにするために、普段の授業で教員と生徒、または生徒間の会話のやり取りの場を多くもたせる。 ・TPOに合った対話活動ができるように、教科書の対話文の練習機会を多くもたせる活動を行う。

宇都宮市立 旭 中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、自分で計画を立てて勉強している」と回答した生徒の割合は77.8%であり、市や県より10ポイント以上高い。「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」は、66.7%と市や県より高い。前年度の1年生の時から、本校の『学習の手引き』に基づいた、宿題や課題の他に自分で学習内容を決めて行う自主学習への取組を積極的に進めてきた効果が現れている。学習に対するモチベーションのためにも、これまでの取組を継続していきたい。

○「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」と回答した生徒は、79.1%であり、市や県より10ポイント近く高い。今年度から配付したタブレットも、当初から生徒は積極的に活用していた。各家庭においてもインターネット使用率が高い状況が考えられる。

○「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している」の回答は85.7%であり、市や県より7ポイント近く高い。普段から男女の隔たりがなく、日常生活から行事に至るまで協力して取り組むことのできる集団である。学級活動や道徳の授業でも、グループ活動の話し合いが効果的に行われている。コロナ禍においても配慮しながら、今後も各授業の中で話し合い活動を積極的に取り入れていきたい。

○「時間を上手に使うことを心がけている」の回答は82.4%で、市や県より6ポイントほど高い。部活動加入率が9割と、ほとんどの生徒が部活動に所属していたり、小学校からの習い事も継続していたりする生徒も多く、学習と部活や習い事の両立をしっかりとしていることを自覚しているものと推察される。部活動にも熱心に取り組む生徒が多いので、今後も認め励ましていきたい。

●「毎日の生活が充実していると感じている」の回答は8割以上(87.3%)であるが、市や県より4ポイントほど低い。コロナ禍で様々なことが制限されていることも要因の1つと考えられるが、生徒が求めているものが何かを日常から見取り、早急に対応しなければならない事案がないかを見極めていくことに努めたい。

●「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」は67.4%で市や県より4ポイント以上低い。授業中に聞くタイミングや時間がなくなったりして、質問できない状況があるものと推察される。自分の力で解決までたどり着くことができる生徒もいるが、そうでない生徒のためにも学力の習熟度に合わせた授業形態やT・Tを活用した個別指導などの対策を考えていきたい。

●「新聞を読んでいる」の回答は81%の生徒が『ほとんど、または全く読まない』であった。新聞をとっていない家庭が多いことが窺える。インターネットなどのメディアでも十分に情報が得られる時代ではあるが、三面記事的な内容だけでなく、身近な地域の話題から社会情勢までの情報に興味関心が持てるような情報提供を仕掛けていく必要がある。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の習慣化	自主学習ノート(実施5年目)を使って、生徒自らが学習課題を考え、毎日1ページ程度取り組み、提出するよう指導する。	「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」に対する肯定的な回答割合が66.7%であり、県平均より7.9ポイント、市平均より4.8ポイント高い。
学習課題の提示	教室の前面黒板左上部に「学習課題」と書かれた表示板を掲示しておき、授業で活用する。	「授業の中で、目標(めあて・ねらい)が示されている」に対する肯定的な回答割合が96.8%であり、県平均より0.3ポイント、市平均より0.9ポイント高い。
振り返りの充実	年度当初より、タブレットを駆使した振り返り活動に取り組む。	「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」に対する肯定的な回答割合が87.6%であり、県平均より7.7ポイント、市平均より7.5ポイント高い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
基礎・基本は、県平均より4.8ポイント、市平均より3.6ポイント高い。思考・判断・表現は、県平均より5.8ポイント、市平均より4.8ポイント高い。	基礎・基本の定着	基礎的な学習内容の定着を図るために、朝の学習の時間(10分)を週に2回設定し、一人一人の学習状況に応じて最適な問題が出題されるAIDリルに取り組ませる。